

平成 27 年 10 月 6 日  
評価専門調査会事務局

「石炭ガス化燃料電池複合発電実証事業費補助金」に関する  
第 112 回評価専門調査会(平成 27 年 9 月 15 日)での主な指摘事項

- ・ 第 1 段階の目標値として、1300 度で 40.5%を達成すれば 1500 度で 46%を達成できる根拠
- ・ 第 2 段階の目標値を送電端効率 40%とした理由(第 1 段階の目標値である送電端効率 46%に対して低すぎないか／設計内容を確認したい)
- ・ 第 2 段階で実施した概念設計の内容(CO<sub>2</sub> 分離回収方式を物理回収法に決めた理由、化学吸収法との比較等)
- ・ 第 2 段階の実用化時に、水素濃度が高い場合のタービンの課題は何か。関連事業として言及されていた水素ガスタービン事業の内容やスケジュール。
- ・ CO<sub>2</sub> 分離回収型 IGCC における発電コスト(経済性)
- ・ 本事業の事前設計時における第 3 段階の設計内容(何を見込み、どのような規模で第 3 段階を実施することを想定していたか／各発電手段の比率等)と、現在の見込み
- ・ 特許の出願件数および出願リスト(名称、出願国等)。これまでの実績として、論文等の発表件数が示されているが、特許こそ重要な成果である。
- ・ 海外出願や国際標準化への取り組み状況や考え方

以上